

教育学部・国際協力推進プラットフォーム連携プロジェクト

『カンボジア王国における国際教育協力事業
— カンボジア王国 Siem Reap 州教員研修
支援のモデル構築に関する研究 — 』

現地活動実施期間: 平成26年2月16日～23日

現地活動実施者
和泉研二(理科教育)、石井由里(国際理解教育)、阿部弘和(教育学部元教授)

学生ボランティア
平田啓(理科教育4年、学生リーダー)、野澤聖也(小学校コース3年)
本田裕美(理科教育3年)、木下江莉奈(理科教育2年)、清家佑美子(理科教育1年)

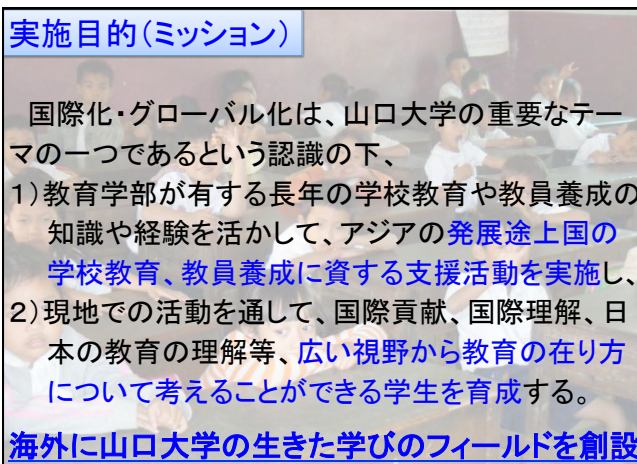


実施目的(ミッション)

国際化・グローバル化は、山口大学の重要なテーマの一つであるという認識の下、

- 1) 教育学部が有する長年の学校教育や教員養成の知識や経験を活かして、アジアの**発展途上国の学校教育、教員養成に資する支援活動を実施し、**
- 2) 現地での活動を通して、国際貢献、国際理解、日本の教育の理解等、**広い視野から教育の在り方について考えることができる学生を育成する。**

海外に山口大学の生きた学びのフィールドを創設

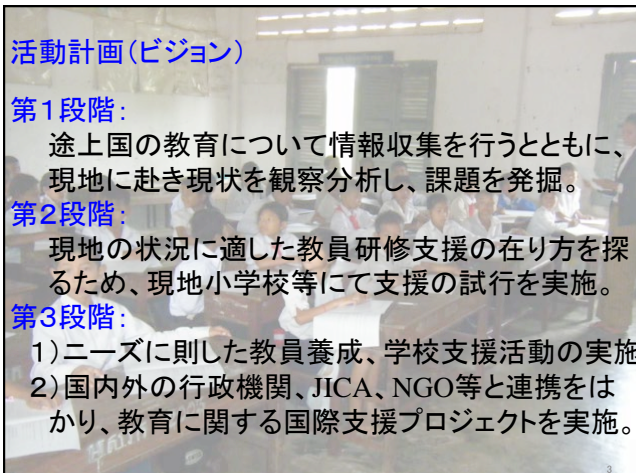


活動計画(ビジョン)

第1段階:
途上国の教育について情報収集を行うとともに、現地に赴き現状を観察分析し、課題を発掘。

第2段階:
現地の状況に適した教員研修支援の在り方を探るため、現地小学校等にて支援の試行を実施。

第3段階:
1) ニーズに則した教員養成、学校支援活動の実施。
2) 国内外の行政機関、JICA、NGO等と連携をはかり、教育に関する国際支援プロジェクトを実施。



活動場所とカンボジアの教育の背景



カンボジアの教育事情(歴史的経緯)

- ・1975年からの3年間のポル・ポト政権下で、総人口の約1/3が殺害。
- ・人的にも施設的にも教育基盤が崩壊。
- ・ポル・ポト政権後、ベトナムの支援で誕生したヘン・サムリン政権は、一から教育制度を立て直す必要があった。人材難のため、当初は、読み書きさえできれば先生になってもらったことも少なくない。
- ・1991年のパリ和平条約、1992年からのUNTAC駐留を経て、急速に発展。
- ・国連や先進国からも多くの支援を得ながら、教員の質や教育システム、教育内容の充実・再構築に取り組んでいる。

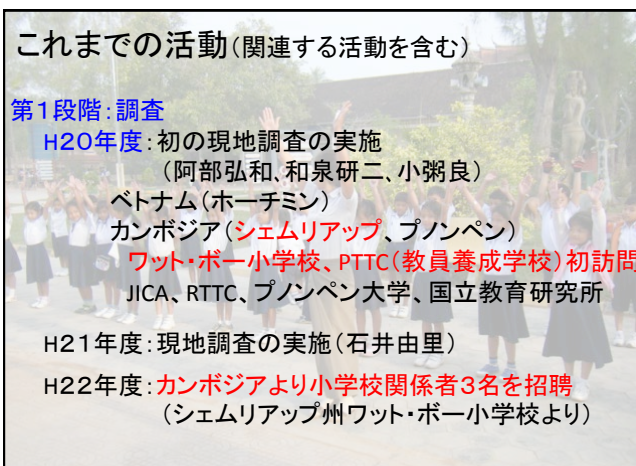
これまでの活動(関連する活動を含む)

第1段階: 調査

H20年度: 初の現地調査の実施
(阿部弘和、和泉研二、小粥良)
ベトナム(ホーチミン)
カンボジア(シムリアップ、プノンペン)
ワット・ポー小学校、PTTC(教員養成学校) 初訪問
JICA、RTTC、プノンペン大学、国立教育研究所

H21年度: 現地調査の実施(石井由里)

H22年度: **カンボジアより小学校関係者3名を招聘**
(シムリアップ州ワット・ポー小学校より)



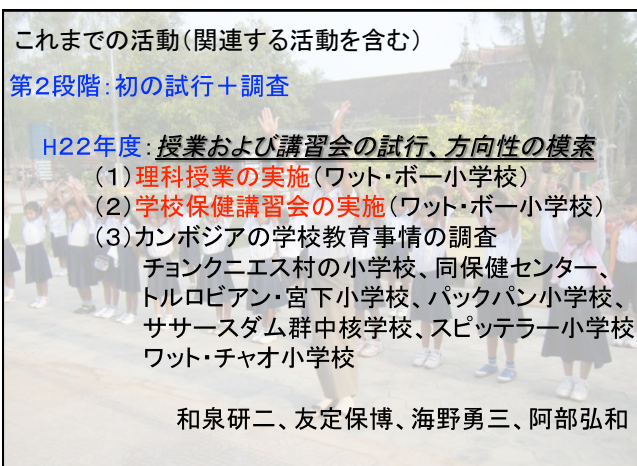
これまでの活動(関連する活動を含む)

第2段階: 初の試行+調査

H22年度: 授業および講習会の試行、方向性の模索

- (1) **理科授業の実施**(ワット・ポー小学校)
- (2) **学校保健講習会の実施**(ワット・ポー小学校)
- (3) **カンボジアの学校教育事情の調査**
チョンクニエス村の小学校、同保健センター、トルロビアン・宮下小学校、バックパン小学校、ササースダム群中核学校、スピッターラ小学校、ワット・チャオ小学校

和泉研二、友定保博、海野勇三、阿部弘和



これまでの活動(関連する活動を含む)

第2段階: 調査+試行

H23年度: 試行の充実化・今後の方向性の確定

- (1) 学校保健講習会の実施(ワット・ポー小学校)
- (2) 新しく正課となった**体育授業の実施**
(ワット・ポー小学校: **現職小学校教員初参加**)
- (3) 山口大学独自の支援拠点の探索
(**チョンカル小学校初訪問**)
- (4) カンボジアの小学生の生活実態の調査
- (5) カンボジアの大学生との交流と意識調査
(**プノンペン大学: 学生初参加**)
- (6) 日本の支援活動の実態調査および今後の方向性に関する調査(PTTC、JICA、日本大使館、NGO法人等
(和泉研二、海野勇三、阿部弘和、田中大輔、林秀晃))

24年度からの活動方針について ～3つの支援活動と3つの拠点～ 限られた資金と人材の焦点化

1. 教員養成への支援

シェムリアップ教員養成学校(PTTC)との連携

H24: 理科授業と学校保健講習会を実施。

2. 現職教員・学校現場への支援

ワット・ポー小学校の他、山口大学独自の拠点を確立(**チョンカル小学校**を拠点とした学校群)

H24: ワット・ポー小学校にて理科授業および学校保健講習会を実施。

チョンカル小学校にて打合せを実施

(3. 日本での研修の支援

PTTC、ワット・ポー、チョンカルの関係者の招聘)

平成25年度の活動

ボランティア学生との協働による

「科学の祭典 in カンボジア」の実施

場所:

PTTC、ワット・ポー小学校、チョンカル小学校

実施日(各校2回実施):

2月18日(PTTC)、19日(ワット・ポー小学校)、21日(チョンカル小学校)

実施内容(担当):

静電気(清家)、音の伝わり方(木下)、大気圧(本田)、酸と塩基(野澤)、手作り顕微鏡(平田)、光の伝わり方(石井、和泉)、振動(和泉)、複眼のつくり(和泉、阿部)

実施方法:

各々でブースを設置。 児童・PTTC学生は自由に移動。

「科学の祭典 in カンボジア」

PTTC理科棟での実施



ワット・ポー小学校での実施



今回の主な成果

- ・PTTCでの活動から、PTTCの教員志望学生との協働による「科学の祭典」が可能との感触を得た。(自主的に実施したいという意識はまだ薄い。)
- ・支援の拠点校として、都市部のワット・ポー小学校のみならず、**田舎のチョンカル小学校でも「科学の祭典」を実施**することができた。
- ・参加学生の意識改革に教育的効果が認められた。
- ・帰国後の報告会を通して、**国際理解・国際支援に関する学生や児童の理解、興味関心**を深めることができた。(附属小学校やちゃぶ台研修会など)

H26年度の計画(案)「科学の祭典」を中心に

○教員養成支援

- ・引き続きPTTCにおいて「科学の祭典」を実施する。
- ・併せて、校長より要望のあった**学生・教員向けに、事前・事後指導**を行う(現地での定着支援)。(「子どもたちのために、今後は自分たちでも実施したい」という自主性を引き出す。)

○現職教員支援

- ・引き続き、**ワット・ポーおよびチョンカル小学校**において「科学の祭典」を行う。
- ・理科室新設予定のワット・ポー小学校では、校長から要望のあった教員向け**理科研修会**も実施(現職教員用)。

○新たな視点

- ・新たな**現地のニーズの掘り起こし**(他教科への波及)
- ・参加学生の**多様化**(他教室学生の参加促進)